

学習塾のめざすもの：

中学受験向け学習塾の広告パンフレットからの分析

佐々木 菜津映

1 学習塾の広告からみる教育観

日本の学力低下問題は、PISA ショックをはじめ様々な分野から危機感が叫ばれている。また学力問題に加えて経済成長の停滞もあり 将来に対する漠然とした不安は大きい。このような中で子どもの将来の安定の為に、より高い教育を受けさせたいという親は、私立校や中高一貫校に期待をよせ、同時に学習塾への関心も高まっている。とりわけ、首都圏はアクセスが良く通学しやすいため、地方より学習塾の選択肢が大きい。また塾側としては、少子化による生徒数の減少が予測される。よって大手進学塾の多くが駅近くに教室を開き、より広く生徒を確保しようと努めている。

本稿では、中学受験に力を入れている大手学習塾の広告内容を分類、検討することで、塾はどんな学習の提供をしているのかを調べてみた。資料としては、学習塾の配布しているパンフレット広告と、インターネットにより首都圏の学習塾を検索し得た各塾のホームページを用いた。広告は塾選びをする際の第一資料であり、保護者が求めている教育観をもっともよく表していると考えたからである。小学生対象の広告パンフレットを入手した。結果として集められた塾は、SAPIX、日能研、四谷大塚、栄光ゼミナール、早稲田アカデミー、市進学院、シドウ会、ena 以上の8塾である。8塾は、駅の近くで複数の学習塾店舗があるという立地条件にある。今回は集団塾とい共通性をもたせるため、個人塾、個別指導専門塾、通信事業のみの学習塾は除外した。

分析方法は、これらの広告資料からよく使われているキーワードとなる語彙を抽出し、その頻度や表現のあり方から、塾の機能を分析する。キーワードは、主として、「受験または学力」「自分」「楽しみ」「仲間」に分類される

2 学力と受験

2.1 学力

この節では、塾という性格から、各塾がもっとも力を入れているであろうと思われる「学力」について触れている表現を集めた。8塾中4件が言及しており、内容は次のとおりである。

四谷大塚は低学年を「知能の開発期」、高学年を「学力の開発期」と位置づけ、そのコンセプトに応じた方法による学習指導を行なっています。

(四谷大塚)

私達は学力の向上もスポーツと同じで効果的にトレーニングすれば普通の生徒でもかなり学力が伸びると確信しており、またそれを実証してきました。

(早稲田アカデミー)

教育の世界も大きな変化がはじまりました。特に新学習指導要領の改訂で学習が大幅に削減されました。将来、必要とされる能力はますます高まる時代に、なぜ学習内容のレベルを下げるのでしょうか？国内だけではなく世界を視野に入れて考えれば、むしろ学力は強化しなければならないのです。

(栄光ゼミナール)

「新学習指導要領」の施行にともない、学校が完全週5日制になったことで授業時間は短縮され、学習内容も大幅に削減・統合されました。その一方で、昨今の少子化の影響から2009年には数多くの大学が無競争で入学できるようになるといわれています。無競争化の傾向は2003年度入試ですでに顕在化しており、今後は「学歴」が評価される一握りの難関大学と、その他の評価の低い大学に二極化されることが確実視されています。ところが、学校の授業は「新学習指導要領」に基づいて応用より基礎・基本を重視し、学習内容を軽減しているため、理解を深め学力を高めたい生徒のニーズに応えられません。

(ena)

学力低下が問題とされていても、学校だけの勉強で足りていると思えば、塾に通う必要性はなくなる。塾通いを検討するか否かは、学校だけの勉強では不十分であると考えているのが通常である。データのうち2件が、「学力」が重要であり伸ばすことができると主張し、「学力」低下に関する危機感については触れていない。終わりの2件に関しては、新学習指導要領による「学力」低下を懸念しているといえよう。学校教育だけでは不十分と考えている保護者にとっても、なぜ不十分なのかその理由は様々であり、各塾の「学力」の考え方の違いも、塾選びの一因になっていると考えられる。

2.2 塾にとって「受験」とは

この節では塾の本来の目的である「受験」を、塾自体がどう捉えているかを明らかにすることを目的としている。塾に楽しみながら通えたとしても、それが合格するだけの学力にならなければ、目的は果たしていない。各塾の、「受験」を表現している文章を集め分析した結果、最も多かったのが「合格後」を視野に入れて「受験」の必要性を述べてくるものであった。「合格後」に言及しているのは、8塾中4件であった。

私たちは、「進学」というイメージを豊かに広げていきたい。中高一貫教育を実践する私学が、一歩先を見せてくれていること。そんなメッセージを読み取り、広げ、整理した結果、日能研は3つの学びのコースを用意しました。

(日能研)

私たちは、中高一貫教育を志すすべての子どもたちと、そのご家族と共にいる「進学準備のための塾」です。

(日能研)

中学受験を考える場合には、まず中学にいかにか合格させるか、塾としてそのノウハウと準備が十分に整っていないと論外であります。ただそれにとどまることなく、さらに、合格・進学してから生徒がどう伸びるかの側面を長期的・総合的にとらえている塾かどうかは欠落しやすい視点ではないでしょうか。

合格までの勉強の仕方、させ方、その背景にあるものは塾によって様々でもありますが、その先の中学進学後どのような学校生活を送れるかは受験時代を通じて何を涵養、獲得してきたかによるところ「大」ということになるからです。

(市進学院)

合格してからも伸びる子どもを育てることです。

お子様を志望校合格という夢の実現に導くことは私たちの責務です。そのためには、どのような努力も惜しみません。しかし私たちは、合格させるだけで良いとは思っていません。

(シドウ会)

合格のための一生懸命が、合格したあとも生徒をささえます。

(ena)

受験は難関校への最短距離を走り抜けるだけのものではありません。受験とい戦いは終わっても「生きる」とい戦いは永遠に続きます。

(ena)

以上のデータからは、「合格」することと同じく、「合格後」においても支援するとい印象が強く出ている。さらに細かく見ると、進学先である私立、中高一環校の環境の望ましさや、長いものではその子ども生涯にわたる学習について述べられている。ここでの「受験」は中学受験であり、子どもにとってその後の高校、大学受験と先は長い。その為には、単なる「合格」だけでは不十分であり、その後の飛躍へとつながるものでなければならない。その意味でも、「合格後」をより重要視していると考えられる。

2.3 受験の肯定観

「お受験」という流行語に見られるように、受験を認めることは世間的にあまり好い印象をもっていない。このような中で、受験についてはっきりとした肯定観を示す記述があった。8 塾中 2 件が受験への肯定観を表現しており 内容は次のとおりである。

中学受験は12歳の春に訪れるたった一度の機会です。そのための準備期間も年々長期間になりつつあります。

受験とい壁を乗り越えることで親も子どもも成長できることを、私たちはご父母の皆さんとともに長年の経験から学んできました。中学受験はすばらしい経験だったとふり返って自信を持って言えるように、私たちサピックスは皆さんの心強い伴走者、パートナーとして力を惜しみません。

(SAPIX)

中学入試というのは、自分の持つ能力(学力)以上の力を発揮することができる、素晴らしい入試です。

(ena)

これらのデータは、受験に関する悪いイメージ(子どもを勉強づけにする、詰め込み教育である等)がいまだに流布する中で、塾の立場をはっきりと出す上で、受験の良さを認めていると考えられる。これは小学生を対象としている塾の特徴であろう。とりわけ保護者にとっては、塾に行かせているとい負い目もなくはない。これに対して塾の存在、受験の存在を肯定的にみることは、良い印象を与えると考える。また逆の立場として、進学をはっきりと目標に見据え価値をおいている保護者にとっては、曖昧な言葉より先合格のための塾と明示している方が安心である。これらは進学熱の高い保護者層を意識し向けられていると考えられる。この節では、塾の大前提となる受験についての広告の仕方を分類したが、どの分類をみても短文での構成が他と比べても目立つ。「自立」「楽しみ」の文章の間に入れられながら、はっきりとした塾本来の目的である「受験」の存在が出されていると考える。

3 学力以外に塾でつきたい力

3.1 自分

各塾の広告で多く目に付くのが、「自分」という言葉である。自ら、自立、自主的という意味のものと、反対語として、強制しない、頼らないという表現で自主性を主張している。8 塾中 8 件すべてが「自分」ということに触れている。ここでは、多くの「自分」に関するデータを、「自分」は何をするのか、また「自分」はどのようにあるのか、より細かく見ていくこととする。

3.2 考える

この節では、「自分」が「考える」ことに言及しているデータを集めた。8 塾中 5 件が触れており内容は以下のとおりである。

学ぶということはいつも自発的で能動的でなければいけません。他人から押しつけられても、けって本当の知識あるいは知恵として身につくことはないのです。私たちは教室とい指導現場で子どもたちとコミュニケーションするなかで、子どもたちが自ら考え、表現することができる逞しい子どもたちに成長するよう、手助けをすることに何よも心を配っています。

(SAPIX)

四谷大塚の創立以来変わらないポリシーに、釣った魚を与えるよりも、魚の釣り方を教えようがあります。これは受験テクニックをつめ込むのではなく、自分で考える力を育てたいという「四谷大塚教育」を象徴する言葉です。

(四谷大塚)

「自ら考える力」を育てる—これが四谷大塚の理念です。

(四谷大塚)

与えられたテーマに対して、最初から教え込むのではなく、アレコレと試行錯誤させながら答えを導くことで、自分の頭で考える習慣を養います。

(四谷大塚)

私達の最も誇ることは、学習を通して自分の力で考え、本気でやる子を育てることができたということです。

(早稲田アカデミー)

私力 獲得した知識や技術を使って、自分の考えを深め広げるチカラ。

(日能研)

与えられた知識を鵜呑みにするのではなく、自分の頭で考えてみる。そのくり返して、やがて生徒は自分のバラバラにあった「点」が「線」でつながる感動的な瞬間に出会うはずです。

(ena)

合格するには、多くの入試問題を早く正確に解くことが必要とされる。しかし従来の多くの知識を要求される問題よりも、考えさせる問題や、総合力を必要とする問題へと傾向は変わってきている。短期的な詰め込みで受験を乗り切ることは難しい。考えさせる問題を解くためには、まず自分で考えるという訓練が必要であろう。各塾が自分で考えることの重要性を説いているのは、こうした受験

問題の変化に対応しながらも、塾でつけたい力とは、合格のための勉強ではなく、考えることができる力を強調しているといえる。

3.3 学ぶ・学習する

この節では「自分」が「学ぶ・学習する」ことについて触れているデータを集めた。8 塾中 3 件が触れており、内容は以下の通りである。

学習するのが楽しく好きになれば、自分からどんどん学ぼうとします。

(SAPIX)

子どもたちは学ぶことがおもしろくなければ自ら学ぼうとはしないものです。

(SAPIX)

日能研は、「自分で学習するチカラ」を身につけることを大切にしています。

(日能研)

お子様が合格された後、中学、高校、大学と進学し社会に出て活躍するようになってからも、自ら学ぼうとする意欲を持ち続け、自己実現できる人材になるよう育むことこそが、私たちの使命であり、喜びなのです。

(シドウ会)

以上のデータからは、何を「学ぶ・学習するのか」については触れられていない。漠然としながらも、自分がともかく「学ぶ・学習すること」ができれば、よりよい影響があることが主張されている。「学ぶ・学習する」ことは、受験に関する内容だけではなく、より広い範囲に対して「学ぶ・学習する」ことが必要であり、塾もその範囲の重要性を説いていると考えられる。

3.4 自立

この節では「自立」という言葉を用いているデータを集めた。8 塾中 5 件が触れており、内容は以下の通りである。

私たちは子どもたちの自立をなによりも大切に考えています。

(SAPIX)

中学受験のポイントは「自立」

(栄光ゼミナール)

中学受験に限らず、受験を通して何を求めるか。一言で言えば「自立的思考力」を培うところにあると市進学院は考えています。市進学院の教育システムと生徒一人ひとりに対するめんどうみ主義はすべてこの「自立的思考力」をいかにして養うかの一点から発想されていると言っても過言ではありません。

(市進学院)

目標は「自立学習力」

(市進学院)

塾とは受験で合格させるためにある。しかし、塾に通いさえすれば合格するものではない。塾に依存的な子どもにさせるようでは、たとえ難関校に合格したとしても、子どもの精神面により影響を与えないであろう。特定の難関校のみを目指す保護者がいることも事実だが、子どものよりよい教育を受けさせたいということが、多くの保護者の願いである。子どものよりよい成長のために、受験を支援する塾があるのであり、それがこの「自立」とい言葉に表されていると考えられる。

3.5 能動的

この節では、自分が「能動的」であると述べているデータを集めた。8塾中1件のみであるが、非常に積極的に触れている。内容は以下のとおりである。

学ぶということはいつても自発的で能動的でなければいけません。他人から押しつけられても、けって本当の知識あるいは知恵として身につくことはないのです。私たちは教室とい指導現場で子どもたちとコミュニケーションするなかで、子どもたちが自ら考え、表現することができる逞しい子どもたちに成長するよう、手助けをすることに何よりも心を配っています。

(SAPIX)

子どもたちが能動的に学習に取り組み、しっかりとした学力が身につくことを目標に、私たちサピックスの指導法およびシステムは、授業、教材、テスト、カリキュラム、クラス編成など全てにおいて最善のものを提供しようと考えられたものです。

(SAPIX)

受験を乗りきるためにもっとも必要なのは、生徒自身の能動的な姿勢です。それは親や教師が押し付けるものではなく、導くもの、気づかせ感じさせるものです。

子どもたちの能動的な姿勢から生まれる創造性、実現される夢は無量大です。

(SAPIX)

能動的とは自ら行動を起こす積極性を表しているといえる。「能動的」とすることで、なんでも取り組む頑張りのような積極性よりも、自分で決めて、自分で行動するという落ち着きのある取り組み姿

勢として「能動的」と表現されていると考える。8塾中1件だが、この「能動的」が繰り返し表現されているところに、この塾が理想とする教育の一端が表されているといえよう。

また共通の項目に入らないが、「自分」に関するデータとして次のようなものがあった。

私たちは生活の中で子どもに即したやる気や隠れた能力を、強制するのではなく、子どもたちと一緒に学び勉強する中で、発見していくことを心がけています。

(栄光ゼミナール)

自分から難問に立ち向かう姿勢をもとう

(栄光ゼミナール)

私達はこう考えました。子供達の将来のために今一番必要なことは、自分で物事を判断しそしてそれをやり通せる力をつけることであるとー。

(早稲田アカデミー)

私達は学習することを通して本気で物ごとに取り組み、他に頼ることなく自分でやり通すことのできる子を育てることを目標としています。

(早稲田アカデミー)

自分のチカラを駆使して、自分のなかに生まれた「？」と向き合うことを大切にします。

(日能研)

大事なことは「がんばる自分」作り。さあ、「いちしん」で「がんばる自分」をはじめよう

(市進学院)

このように「強制しない」「姿勢をもつ」「やり通す」「チカラ」「がんばる」などの表現により、「自分」から行動することの重要性が、繰り返し主張されている。それでは、子どもが自ら考え、自ら学ぶようになる為に、塾が提供する学び方の特徴とは何かを次に検討する。

4 「塾に通う楽しみ」とは

保護者が子供の受験のために塾を選ぶという時点において、子どもが続けて通えるかどうか、塾での勉強はつらくないかという心配事が予測される。子ども自身が塾に通う中で何らかの楽しみを見出せたら、こうした不安が軽減されると考えられる。この節では、「楽しみ」と表現されている文章から、何が「楽しみ」であると述べられているのかを明らかにした。8塾中6件が、「学ぶこと」が「楽しみ」であると述べており、内容は以下の通りである。

本来、学ぶことは、楽しいことなのです。わかること、知っていることがどんどん増えていくことは、自分の世界が広がるわけですから、とてもうれしいことなのです。学習するのが楽しく好きになれば、自分からどんどん学ぼうとします。

みなさんには、学ぶことを大いに楽しんでほしいと思います。

(SAPIX)

子どもたちは学ぶことがおもしろくなければ自ら学ぼうとしないものです。1つのことに熱中し、とことん考え抜いた「充実感」、問題を解くことができた「達成感」、自分自身が一回り大きくなったような「成長感」といった3つの「学ぶ喜び」が子どもたちの中に自然と沸き起こるからこそ、それがさらなる学習へとつながっていくのです。

(SAPIX)

遊ぶように学ばせることができれば・・・学ぶことがやがて楽しくなる。学ぶ楽しさを子どもたちに教えたい。

(四谷大塚)

子どもたちには本来、「知りたい」「発見したい」といふ好奇心が備わっています。こうした知的好奇心を適切に刺激してあげることで、子どもたちは学習する面白さを知ります。

(四谷大塚)

子どもたちの想像力を広げ、のびのびと楽しく学ぶために、教室の雰囲気はとても大切です。

(栄光ゼミナール)

学ぶ楽しさを知ることから、可能性が芽生えます。

(ena)

明るく楽しい環境でお友達と一緒に、好奇心を刺激しながら、自分で考え実行する面白さ、学ぶことの楽しさを実感してもらいます。

(早稲田アカデミー)

このコースの授業では、知識や技術を覚えることを、「楽しさ」と共に学んでほしいと思います。

(日能研)

以上のデータからは、「学ぶことは楽しい」「楽しく学ぶ」といふ主張が読み取れる。これらは、塾での勉強や受験勉強というものは苦痛ではないのかといふ不安に対して、向けられた言葉と考えられる。中学受験を中心としているため、早いところで小学1年生から通塾している。この年齢層を対象とする場合、遊びへの関心も高く、また長時間の集中力も十分ではない。子ども自身が受験への興味をまだもっていない年齢である。このような年齢の子どもに対して、「学ぶことは楽しい」と分かってもらふ事は、その後の受験に向けて、子ども自身が勉強しようとする事へとつながる。無理なく

長期にわたって、受験勉強をする第一歩である。入試や受験勉強に対して、本人が拒否感をもたない方に、「学ぶことは楽しい」と身をもって実感してもらいたいとい主張といえる。

このように、楽しみながら塾に通うことができたとしても、塾の本来の目的は、受験に合格することである。次に、「受験」に関するデータを検討していく。

5 仲間

今回は対象を集団塾に絞っているため、塾でできる友達や先生といった仲間がいる。この節では「仲間」について書かれているデータを集めた。8 塾中 6 件が「仲間」について言及している。内容は次のとおりである。

自分だけ合格すればいいのではなく、みんなで乗り越えていこうという雰囲気に入れられ、生徒たちは、ライバルという同志。お互いに切磋琢磨しながらみんなで合格しようと意欲にあふれています。

(SAPIX)

各教室、各教科の教師が志望校研究を行い、日常の授業にたえず反映していることはもちろん、同じ夢を目指すライバルや仲間との切磋琢磨が、高い目標をクリアするためのもう1つの条件となっています。

(SAPIX)

目標を共有することで互いを高めあおう
仲間や先生たちと積極的にふれあおう

(栄光ゼミナール)

学校のお友だちも好きだけど、栄光のお友だちはもっともっと好きです。

(栄光ゼミナール)

「自立した学習者」への道歩んでいる先輩としても、そして自らいまも、学び進んでいる「仲間」として、子どもたちのそばにいます。

(日能研)

カリキュラム、テキスト、進学情報、組織・いずれも大切です。そしてその中で一番大切なものが人と人とのつながりであると考えました。教える人(先生)と教えられる人(生徒)との信頼関係です。

進学塾における先生と生徒の信頼関係は、先生が「一生懸命頑張って教えて、この子たちをなんとか合格させてやろう」とい気持ちになり、生徒も「よし! この先生なら安心だ。本気でこの先生についていこう」と思った時に生まれます。

(早稲田アカデミー)

友だちの意見をよく聞いてください。「あっ、そうだった、そうだった」「あれ、そんな考え方もあるのか」「あの説明はわかりやすいな」など自分ひとりでは気がつかない新しい発見がたくさんあるはずです。

(市進学院)

面倒見の良さ、きめ細やか指導、そして生徒と講師の心のつながりを大切にするシドウ会は、指導力を高め、学習環境を実現させるための努力を常に心がけています。

(シドウ会)

以上のデータより、様々な捉え方でありながら「仲間」の重要性が主張されている。生徒同士や生徒と先生など塾の中での、人と人とのつながりを強調している。実際に受験する時は一人であり、孤独感、不安感もある。一緒に頑張る仲間がいることが、心強さにもなれば焦りを減らすことができる。受験で合格するには、他の生徒より良い点を取らなければならない。塾の仲間でも競争関係にあるといえる。しかし、ライバルや切磋琢磨と表現されているように、他の生徒を蹴落とすのではなく、互いに刺激し合い、励まし合える関係である。仲が良いだけでも受験勉強に集中できるのかという疑問もある。このようなある程度の緊張感を維持しつつ、人間関係が安定している環境が塾の学びの場としてふさわしいと考えられる。

6 もう一つの学校としての塾と今後のゆくえ

以上見てきたことを統括してみると、塾での学びとは「受験」そのものが目的ではなく、学びの楽しさを知り、自らが楽しみながら学びに取り組み、ひいては生涯にわたる自立を目指していることが分かった。4つのキーワードである「受験」「自分」「楽しみ」「仲間」から、「受験」を学力として置き換えるならば、まさに学校に役割と基盤は同じであるといえる。塾の広告には、学校とはどんなものかという見方がほとんど出されていない。塾の学びは学校の勉強の先取りや補完ではなく、むしろ基盤としては同じである。目的とするところが同じであるとすると、塾を望む保護者もまた、学校に代わるような存在として求めているわけではないと考える。私は先の4つのキーワードを満たす学校の役割が弱まっていることから、塾がもう一つの学校として、よりその存在感が主張され学びが求められているのではないかと考えている。

少子化により、塾の間の競争が強くなる傾向が予測される。よっていかに他の塾とは異なる独自の学びを提供しているかを主張していくことが必要となる。学習塾の実態を調査した小宮山はその著書の中で、塾の役割の一つに居場所としての学習塾を挙げ、「もちろん現在は、まだ進学実績を示さないと、多くの子どもが集まらない時代だが、二十一世紀の塾は、居場所としての役割が重くなることは間違いない。」(小宮山, 2000, p.136)と述べている。今回調べた塾における「楽しみ」や「仲間」というところに、この居場所としての役割が表されていると考えられる。

引用文献

小宮山博仁(1993). 『学歴社会と塾 脱受験競争のすすめ』. 東京: 新評論.

小宮山博仁(2000). 『塾 学校スリム化時代を前に』. 東京: 岩波書店, pp. 56-137.

四谷大塚. 『四谷大塚』. <http://www.yotuya-otuka.co.jp/index.html> ,2005年12月15日採取 .

日能研. 『日能研について』. http://www.nichinoken.co.jp/about/revolution/f_revolution_01.html ,2005年12月15日採取 .

SAPIX. 『SAPIX小学部』. <http://www.sapix.com/> ,2005年12月15日採取 .

早稲田アカデミー. 『早稲田アカデミー がもとめるもの』. <http://www.waseda-ac.co.jp/> ,2005年12月15日採取 .

中学受験の修学会シドウ会. 『成績保証 .個別対応を行なう進学塾』. <http://www.sg21club.co.jp/> ,2005年12月15日採取 .

ena 『進学塾 ena』. <http://www.ena-net.co.jp/> ,2006年1月15日採取 .

市進学院. 『市進ホームページ』. <http://www.ichishin.co.jp/elementary/index.html> ,2005年12月15日採取 .

栄光ゼミナール. 『栄光ゼミナール小学部』. <http://www.eikoh-seminar.com/> ,2005年12月15日採取 .

その他上記塾のパンフレット多数